

# 「自分の命を自分で守る～自ら考え、行動できる防災教育を目指して～」

令和4年度 高知県学校安全総合支援事業（交通安全）

香美市教育委員会 拠点校 香美市立舟入小学校

## 1 事業の目標

### （1）モデル地域の現状及び安全上の課題

香美市は、市の面積の9割を森林が占め、中央には白髪山を源とする物部川が流れるなど自然豊かな市である。山間部と市街地を結ぶ基幹道路として市の中央部を国道195号線が通る他、近隣市町を結ぶ県道が縦横に張りめぐらされており、交通量も多く、また道路環境も悪いところもあるなど交通安全の面で危険性が高い地域と言える。

香美市では、令和3年度に本事業である高知県学校安全総合支援事業（生活安全）の指定を受け、「高知県安全教育プログラム」等に基づく授業実践や地域コミュニティと連携した活動を進め、危機管理マニュアルの見直しや研修をとおして防災意識の向上など一定成果を上げてきている。

香美市は、市内全小・中学校が平成31年度からコミュニティ・スクールとなり、地域学校協働本部が児童・生徒の見守り活動をはじめとする生活・交通安全や学校行事、授業支援などの支援体制や教育環境の整備に一早く取り組んできている。また、香美市少年育成センターの事業として各校に「やまびこ会」という児童・生徒の生活・交通安全を見守りする組織がある。学校のPTA活動でも朝の交通安全の立哨や校区の危険箇所の点検などに取り組んでおり、地域ぐるみで児童の交通安全について見守ってくれる体制は整っている。

昨年度に引き続き、学校安全計画や危機管理マニュアルについての見直しを含めPDCAをいかに効率よく、効果的に回していくかなど今後も研究、実践が必要である。

今後は、学校や地域の現状に鑑み、日常の授業実践においてもカリキュラムマネジメントを行い、教科や学校行事とも関連付けながら、教職員や児童生徒等の安全に対する意識の高揚を図ることが課題となっている。

### （2）モデル地域の事業目標

- 拠点校における学校安全の取組や推進体制を市内全小中学校区内等に普及するとともに、各校の安全教育担当教員が連携して、学校安全の取組を推進する。
- 「高知県安全教育プログラム」等に基づいた授業を実践することで、子ども達が身の回りの危険を予測し、自ら危険を回避する力を身に付け、自分の命は自分で守り、安全に行動できる児童の育成を図る。
- 市内全校コミュニティ・スクールの利を生かしながら、学校・家庭・地域が連携しながら、地域にある他の団体「やまびこ会」などとも連携し、子ども達との安全を守る協働体制を再構築する。

## 2 モデル地域の取組の概要

### （1）安全教育の充実に関する取組

#### ア 安全教育の充実に関する取組

各校が作成している学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直しを、拠点校の取組を参考にしながら、より実践的な内容に見直し、それに則した訓練及び研修を行っていた。その際、文部科学省『学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン』を活用し、従来網羅されていなかった事案についても取り入れ作成することとした。そして、これらのことを学校運営協議会で協議し、内容の充実を図った。

#### イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

全校で行う学校評価を活用し、安全教育に対する意識等の状況、成果・課題等を把握し、その結果を基にPDCAサイクルを回し、次年度以降の計画や対策を検討している。

## (2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

毎年、香美市通学路安全対策連絡協議会を開催し、通学路の児童・生徒の安全を確保するため関係機関と合同で安全点検を実施した。

また、道路環境及び街灯等の整備など関係機関・関係部局の協力も得ながら整備に向けて話し合いを進めている。

## (3) 学校安全担当教員の資質向上に係る取組

市内全小・中学校の担当者及び教育委員会が学校安全実践委員会に参画し、拠点校の実践に学びながら、各校の学校安全担当教員の役割・重要性を確認し、各校の安全教育全般の取組の充実を図った。

また、拠点校の研究発表会に参加し拠点校の取組事例や講師の講話を通して資質向上を図った。

## (4) モデル地域全体への普及

年間2回開催予定の安全教育実践委員会や11月に開催した拠点校である舟入小学校研究発表会を開催し、道徳教育や生活科、総合的な学習の時間など様々な視点から交通安全について考える授業を公開することができた。連携校においては、校長会での報告や拠点校の公開授業・講演会等を通して、交通安全に対する危機意識を高めることができた。

また、市庁舎での取組発表、パネル展示や2月開催の「よってたかって生涯学習フォーラム」における児童の取組発表等により、地域や香美市全体へも情報発信を行うことができた。

# 3 拠点校の取組

## (1) 拠点校の目標

生活に結び付いたより実効性のある計画やマニュアルを先進校や講師等に学びながら作成するとともに、計画やマニュアルを基にした探究的な授業実践や日々の取組により、児童が身の周りの危険を予測したり、回避したりする行動がとれる等、自分の命を自分で守ることができるため生活安全に関する資質・能力を高めていく。

## (2) 安全教育の充実に関する取組

### ① 研究発表会の開催

本年度の取組のまとめとして11月25日に交通安全研究発表会を開催した。参観日も設定していたので、多くの保護者に安全教育の取組を紹介することができた。授業では、全ての学年で「高知県安全教育プログラム」を基にした単元計画を立て、道徳教育や生活科・総合的な学習の時間、学級活動等の学びをつないで実践力を高める授業づくりを進めてきたことを表現できた。講演では、南国警察署 長谷川交通課長より『地域とともにすすめる交通安全』と題して講演をいただき、今後の取組への示唆をいただくことができた。



### ② 安全ポスター・看板の作製、設置

昨年度、校区探検を通して作成した「ふな入安心・安全マップ」をもとに、交通安全

の視点に立った学習を進めてきたが、アンケートの結果等から通学路の安全確保や自分たちの校内での生活の仕方について不十分であるということが分かった。そこで、通学路には「交通安全」を呼びかける看板を作製したり、校内での危険箇所を見つけて、その場所での危険を回避する行動を呼びかけるポスターを作製したりして設置する取組をすることで児童の意識を向上させた。



### ③校内研修

1学期に全校研究として授業公開を行った。その際、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の澤近指導主事を講師としてお迎えし、授業や本年度の研究に対するご示唆をいただいた。また、高知県教育委員会主催の防災教育研修会や学校安全教室研修会の映像資料による研修を行うとともに、文部科学省「教職員のための学校安全eラーニング」にも取り組んだ。

## (3) 安全管理の充実にする取組

### ①保護者・地域学校協働本部による登校時の街頭指導等

以前より保護者・地域学校協働本部の協力のもと、月に2・3回、登校時の見守り街頭指導を行っている。また、地域の方には、農作業の傍ら児童の安全に留意し見守りを行ったり、声かけを行ったりしていただくなど、地域を巻き込んだ活動も継続して続いている。今後は、次年度からの事業とも連携し、「蛍光ベスト」等の活用により注意喚起を効果的に行えるよう取り組む予定となっている。

### ②危機管理マニュアルの見直し

文部科学省『学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン』を基にしながら、従来の危機管理マニュアルについて見直しを行った。従来網羅されていなかった事例についても取り入れながら作成を行った。また、今後の学校運営協議会で検討してもらう予定になっている。作成したマニュアルについては、市内各校の安全担当者に送付し活用してもらった。

## (4) 取組における成果と課題

### 【成果】

- 危機管理マニュアルについて抜本的な見直しを行うことができ、今学校の安全教育に何が必要か再認識できた。
- 安全教育プログラムを活用し、カリキュラムマネジメントを意識した単元計画表を作成することができた。

### 【課題】

- マニュアルを見直す中で、教職員の不審者侵入時の児童誘導についての訓練が不十分であることが分かった。
- 児童へのアンケートとの結果で
  - ・道をわたるときに「とまる」「みる」「たしかめる」ことができている  
86%→85%
  - ・登下校時の危険な場所を知っている  
63%→49%と肯定的評価が下がったことは、交通安全教育の取組を進めてきた中で児童の「自分たちは十分でない」という意識の向上の結果だと捉えている。  
ここから、「自分たちがどう行動すべきか」を常に考えながら、その行動化の実現に向けて、より具体的な実践を進めていかななくてはならない。
- 地域で自分たちの安全を見守ってくれている方々について児童はもちろん保護者に

も周知していく活動が不十分だった。

## 4 事業の成果と課題

### 【成果】

危機管理マニュアルの見直しや各教科とのカリキュラムマネジメントが進むことにより拠点校を中心に各校とも安全教育の充実が図られ始めた。

また、交通安全を含め学校安全に関する校内研修等が全校で計画的に実施されることにより、未然防止や交通安全に対する意識の高揚が見られ始めている。

その他にも、令和4年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業とも連携することにより、より多くの方々協力していただくことことで、地域ぐるみで児童・生徒を安全に见守る支援体制が整ってきている。

登下校中の安全確保や、通学路の危険箇所対策は、本年度も「香美市通学路安全対策連絡協議会」の中で、生活安全、交通安全両面から危険箇所を総点検するなど、他の関係機関とも連携し安全対策を実施している。本年度は、これまでの取組の啓発の成果もあり、防犯や交通安全の観点から危険箇所67か所（昨年度34か所）が計上され、環境整備も着実に進めている。防犯カメラの設置に関しても、新たに3校3台の要望が出されており、年度内に設置完了の予定となっている。

### 【課題】

本年度においても依然として、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域や香美市全体の交通安全体制の整備や組織の見直し等を含めた計画通りの再構築を行うことが十分にはできなかった。学校においては、管理職以外に学校安全担当教員を位置付けることが進み、組織体制は整ったが、教職員全員による実働的な学校安全体制の構築を図る必要がある。そしてさらには、今回の取組により高揚が見られた危機管理への意識を継続且つ、自主的なものになるようさらに継続して取り組む必要がある。

## 5 今後の取組

### <学校>

- ①本年度の取組をより多くの方々に知ってもらえるよう、「香美市よってたかってフォーラム」やSNS等を通じて発信し、本事業及び学校の取組をお知らせするとともに、児童の安心・安全について協力を願う。
- ②生活安全や交通安全を含め、児童の安全確保について十分とは言えない取組を再点検し補充していく。（不審者侵入対応 等）
- ③生活安全や交通安全を含めた「我が家のルールづくり」をPTAと連携して保護者への啓発も続けていく。
- ④生活科や総合的な学習の時間で児童が気付いたり、保護者等から連絡があったりした危険箇所等について関係機関と連携し改善を働きかける。

### <香美市全体>

- ①生活安全と同様に交通安全においても児童・生徒等に関する交通安全に関する取組、地域学校協働本部との連携や統一した体制づくり、環境整備は、今回の指定事業が一つのきっかけとなり今後発展することが期待されている。また併せて、「やまびこ会」等の他の団体等との連携強化、体制の再編なども視野に入れ取り組んでいきたい。
- ②本年度の取組を昨年度の生活安全、そして次年度の災害安全の観点とも関連図け、総合的な安全対策へと取組を広げていきたい。  
そして今後も、香美市が取り組んでいる市民一体となって取り組む「よってたかって教育（よってたかって地域が育てる教育）」の観点からも地域や関連機関と連携し、地域ぐるみで安全教育に努めていきたい。